

2020年、オリンピック・パラリンピックが日本で開催される。招致活動に参加した一人として嬉しい。開催都市となったことで新たな挑戦が始まった。

招致活動では、自国開催を経験したアスリートとして想いを語ってきた。1998年、長野パラリンピックのゴールエリアは観客の興奮と歓喜が渦巻いた。選手の優勝

を我が事のように喜んでくれた人々の笑顔は、

私にとって挑戦し続ける気力を

湧き立たせてくれる宝物だ。  
長野パラリンピックはまた、



日本の社会に新しい風を吹き込

むきっかけにもなった。障害者を取り巻く環境、そして人々の意識が長野以前と以後では明らかに変わった。駅などの整備が進み、障害のある人が街に出る機会が増え、車いすで街を歩いても珍しがられなくなったし、「障害があってもスポーツをやっている選手がいる」ことが広

るか真価を問われるのはこれからだ。競技団

## 2020年は通過点

# スポーツの役割示せ

電 通  
コミュニケーションデザイン局<sup>PR</sup> 大日方邦子(41)

グ業界など全  
ての関係者は

く知られた。そして今回の招致活動では「オリンピックとパラリンピックで一つの大会だ」という意識を持つ人が増えた。

時代は大きく動いている。11

年のスポーツ基本法の制定で、

スポーツは権利として保障され、社会の発展に寄与する役割が明確になった。来年度からは

とほなにか、20年オリンピック・パラリンピックが一つの道しるべとなることを期待する。